

INGING NEWS PAPER



2019 Vol.06

INGING MOTORSPORT
OFFICIAL WEBSITE OF PAPER



いざ、
勝利
へ

綿密なピット戦略で



Race Report

Round.5 TWINRING MOTEGI 8/18 Final 決勝 2019年8月18日 ツインリンクもてぎ

NEXT RACE ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶
ROUND.6. OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT 9/28-29

TAKE FREE Support by © cyber net
株式会社 サイバーネット

灼熱の路面と 2ピット作戦



Race Report

決勝 2019年8月18日 ツインリンクもてぎ
天候:晴れ/コース状況:ドライ

Results

#38 石浦 6位

#39 坪井 17位

決勝を迎えたツインリンクもてぎは、19,500人の観衆を集めた。予選日より若干過剰な暑さを感じ、風が激しく吹いてくれた。気温は最高37度以上、決勝時には37度以上も達していた。ちなみに、ピット内は常に35度以上の暑さだった。第10ピットスタートの30分間のフリー走行は、38号車石浦が6位、39号車坪井が4位と好成績。しかし、セッション終わりのスタート練習では、2台ともエンジンストールで終了してしまった。14時15分、オンタイムスタートラップがスタート。しかし、他車2台がエンジンストールしてしまつた。スタートがディレ

クトに、ほとんど、フォーメーションラップ開始のアナウンスは流れ、レースは1周減速され51周で戦うことになった。昨年、2ピット作戦が功を奏したという事例があり、もてぎラウンドの戦術は、ソフトタイヤスタート、ミディアムタイヤスタート、1ピット、2ピットなど、作戦の選択肢が分かれ、グリッドでライバルが控えているタイヤにも当然注目し、戦略を立てることに、5番グリッドからスタートの38号車石浦は、前4台がソフトタイヤを装着していたことから、別の戦略を採り2ピット作戦でスタート。ミニマムでピットインし、ソフトタイヤで決勝を戦う1ピット作戦を取る。6周目

でピットインし、ミディアムからソフトタイヤに履き替えた。2ピット作戦を取るクルマや早めのピットイン戦略を行うチームのピットのタイミングと重なったこともあり、思いのほか順位を下げた。18位でコース復帰。その後は、2ピット作戦のクルマのピットの出入りの状態で順位は変動し、実際のポジションまで順位を戻していく。27周目から38周目まで10位。その後も安定したペースでポジションを戻し、最終には前を行く車をオーバーテイクするなど、最終的に6位でフィニッシュした。一方、39号車坪井は、予選で中国に沈んだこともあり2ピット作戦を敢行する。ソフトタイヤでスター



38 石浦 宏明

5番手スタートという微妙な位置からでしたが、前4台がソフトタイヤを装着していたので、自分は反対のミディアムタイヤを選択しました。スタートは悪くなかったですが、3コーナーで野尻選手に前に行かれました。6周目に燃料がつかつてピットに向かうと、ピット作業で野尻選手の前に出られたのですが、たまたま自分の前へ2ピット組が出て来たので、前へ出られず10数秒も失ってしま

いました。ペースとしては悪くなく走っていましたが、戦略的に3バターンあったと思うのですが、その相手の戦い方次第でロスが発生してしまうということがわかりました。クルマの性能的にトップを走れるクルマではないので、今回のレースを分析して戦えるクルマを作った次のレースに臨みたいと思います

トし、前を走る車に追いついたのが9周目でピットイン。14位でピットアウトするも37号車に抜かれて15位に、その後は、順位は他車のピットインで入れ替わり、一時7位までポジションアップ。39周目で2回目のピットインをするも16位でピットアウト。最終の3ステインはミディアムタイヤでこれまでより1秒もラップタイムが落ち、1分38秒台とペースが上がらないまま17位でフィニッシュした。今回表彰台を狙ったのは、戦術よりも戦えるクルマに仕上げることが出来なかったことが原因。監督の言葉を借りると、このままでは終われない。残り2戦を全力で戦う。



39 坪井 翔

10番手スタートだったので、ほかの人と同じ作戦だと厳しいと思ったので2ピット作戦にしました。この作戦を取るポジションとしては、自分以降の後方グリッドの人たちがやるとして、クリアなところをうまく走れば勝負ができると思っていました。しかし、燃料の軽い時でもペースが上がらずギャップを縮げなかったため、1回目のピットの時に、37号車のニック・キャシディ選手

に前に出られてしまいました。その時点で勝負が決まったかなと思ってしまいました。ニックの前にも速さがなかったので、レースになりませんでした。決勝がなぜこんなに遅かったのか...想像以上にロングのペースが遅く、いつもクルマのバランスが違っていて、早く原因を見つけたいといけません。予選はますますたっただけに残念です



監督 立川 祐路

いろんな戦略が分かれるレースでした。石浦は、前からスタートするクルマがソフトタイヤだったのでミディアムでスタートして、ミニマムでピットに入りソフトに

換えて速く走ると言う戦略だったのですが、序盤に思った以上に後方につがってしまいました。ミディアムタイヤのペースは思いのほか良かったですね。坪井は、2ピット作戦で行きましたが、2ピット自体は、思ったほどソフトタイヤが軽くないし、カソリンが軽ければそれだけ速く走れないといけないのですが、ペースが上がらなかったですね。レースは2台とも厳しいものとなってしまいました。このまま終わらせないで、残り2戦決めるように頑張ります

